

## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2017/10/1 ～2017/10/31 )

### 1. 勉学の状況

今学期履修する授業は①Labour Economics ②Institutional Economics ③Price and Competition Theory ④Behavioral Economics ⑤German as a Foreign Language の五つ。①は様々な環境の仮定の下で、企業と労働者の両者にとって最適な賃金・雇用量を決定する方法・過程を学んでいく学問。②は中級レベルのミクロ経済学で、効用最大化・支出最小化問題を初めの段階では扱っていた。③は産業組織論と大部分重複しており、完全競争市場・独占市場での企業の価格決定を実践的に行った。④は近年流行りの経済学で、人間の心理行動を理論に組み込んだ経済学。(ちなみに、2017年ノーベル経済学賞を受賞したテーマも行動経済学に関する研究)。これまでは少数の法則(Rule of low number)などがトピックに出てきた。①～④の授業は全て英語で開講されており、大半の授業は週2回行われ、理論を学ぶ授業と問題を解く授業とで分かれている。

私はドイツが全く出来ないままドイツに留学した変わり者で(千葉大学では初めてらしい)、まあ英語でもなんとか生活していけるだろうと出発前はたかをくくっていたのだが、やはりドイツ語を話せないと生活しにくく、下に見られている感じがする(個人の所感)ので、せめて生活が滑らかに進むくらいのドイツ語は身につけようと思い⑤の授業を履修した。今月は挨拶の仕方、質問の仕方を主に習った。

### 2. 生活の状況

#### 【最初の印象】

デュッセルドルフに来て早くも1ヶ月が過ぎた。私はまずデュッセルドルフという街に慣れるために、大学入学前にデュッセルドルフを訪れあちこちを探索した。最初こそ画面越しでしか見たことのないヨーロッパの街並みを歩き愛でていたのだが、来独3日目には飛び抜けた見所が無いことに気づき、観光にはあまり向かない街だなあというのが最初の印象であった。

#### 【食べ物についてあれこれ】

街のあちこちにパン屋があり、ドイツ人の食生活の中心を成しているのがうかがえた。またクオリティーも高く、特に個人が営んでいるお店で今までハズレを引いたことは無い。

移民を多く受け入れているからか、様々な民族の料理店があり、大半の店は自分が想像していたより味のクオリティーも高くて驚いた(正直、高級店にでも行かないと美味しいものは出てこないだろうと侮っていた。ごめんよ、デュッセルドルフ…。)しかし料金は日本に比べてなかなか高く、水を注文しただけで2ユーロ(260円)取られるのは未だに慣れず、貧乏性の私からすると心を痛めるものがある。

一方食材を売っているスーパーを見てみると、ほとんどの食材は日本より安い。特にバターと肉類は感動のものであった。そんな値段の安さという魅力を、レジの面倒臭さという不満が相殺、あるいは上回ってしまう。レジ袋が無いのはまあよしとしよう。けれども、カゴに入れた商品を全てコンベアーに取り出し、レジを通したのからその場で次々に袋に入れて行かないといけな、謎の焦らせる仕組みはいつまでも馴染める気がしない。一人で買い物するにはかなり辛いシステムなのである。

飲み物は炭酸入りのものが多い。いや、これが本当に多いのだ。ビールはもちろんのこと、オレンジ、りんごなどのジュース類、水に至るまで炭酸が入っているのだ。炭酸が嫌いな人が嫌でも炭酸を飲めるようになる国、それがドイツ。

#### 【街の人々の性格】

ドイツに来る前のイメージとしては、とにかくルールに厳格で、冷たい対応をするというものだった。しかし実際に様々な人と会ってみると、かなり柔軟かつ丁寧に対応してくれたり、地図を持って歩いていると“May I help you?”と声をかけてくれる人もいたりしたりと、当初のイメージとかなり異なるものであった。

今回はレストランで払うチップの実態、デュッセルドルフ周辺都市のお話、ビザ取得は果たして成功したのか、について書いていこうかと思います。